

## 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	3ピース小松			
○保護者評価実施期間	令和8年2月16日		～	令和8年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	令和8年2月16日		～	令和8年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月18日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもに関わるスタッフが、それぞれの児童の発達や特性、家庭や学校を含めた環境因子に共通理解を持ち、こどもに寄り添った支援をおこなっていること。個別支援計画をスタッフみんなで検討し、十分に内容を理解したうえで支援にあたっていること。	毎日ミーティングの時間を確保し、児童の状況や起こった出来事について細かく共有を行っている。参加が難しい場合など、記録に残して全員が漏れずに情報を共有できるように努めている。また、担当者会議や面談等で児童発達管理責任者が保護者とお話した内容を、ミーティング、記録媒体で共有し、利用児童の現在の課題やご家族のニーズをスタッフが共有する機会を設けている。支援計画の立案に当たっては、担当者を中心に全スタッフが会議に参加して児童の現在の様子や課題について検討し、どのような活動内容を通して成長につながる支援ができるのか、具体的に実現可能な内容となるように話し合いを大切にしている。	個々の特性を考慮しながらも、一緒に活動に取り組むことで得られる経験を促すため、集団活動の種類の幅を広げられるよう検討している段階である。
2	児童が同じ時間に同じ活動に取り組めるように集団活動の時間をできるだけとりいれられるような計画を立てている。体を動かすような運動メニューであったり感覚遊びとしての粘土遊びなど個々に興味を持ってそうで目づ療育の面からもプラスに働く内容を考慮していること。	理学療法士からの運動に関する専門的な見方を会議で聞き、個々の特性に合った体の動かし方を参考にするようにしている。	運動に加え、遊びを通して感覚統合にアプローチできる内容について理解を深め、実際の活動に反映できればと考えている。
3	スタッフが個性を発揮できる良い関係性であること。	それぞれのスタッフが得意分野、専門分野の知識や経験を十分に活かし活動の充実や職務の効率化を図れるように工夫している。	それぞれのスタッフが深めたい分野や活動について学んだり、研修を受けたりできるような時間を作っていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設的环境(広さ、個室が少ないこと)	集団活動において運動をする際や、複数の活動が同時に展開している場面において、走り回る、ボールを使用するなど広いスペースが必要となる遊びでは、広さが不十分に感じられるため、パーテーションで空間を区切る、時間で活動を区切る、スタッフの配置を工夫するなどして危険を回避できるよう努めている。また、場面の切り替えが苦手の児童を周囲から離れた環境で見守る際に、場所で区切ることが難しい。	外での活動を増やすなど、屋外を有効活用する。パーテーションや段ボールなどで作ったスペースを活用する。
2	スタッフの数	送迎に出る時間が重なるなど不足感を感じる。手厚い支援が必要な児童がいる場合やトイレ介助が必要な児童がいるとスタッフ間に不安を感じる場合がある。	隣接するスタッフにいつでもヘルプを発信できるような手順を確保している。また危機管理をどのスタッフも念頭に置いて支援に取り組み不安要素を最小限にとどめらるようになっている。
3	家族支援の充実	保護者が交流できるような機会を設けたが1日しかなかった。ペアレントトレーニングの機会が設けられていない。事業所の営業日が平日のみであることもあって、イベントや保護者会のような人が集まる会の日程調整が難しい。	スタッフがペアレントトレーニングの研修に参加するなど、家族支援の充実に向けて取り組み中である。保護者や利用児家族が交流できる場を持てること良い。